

刑法総論Ⅱ

科目ナンバリング CRL-102
必修 2単位

佐々木 知子

1. 授業の概要(ねらい)

刑法総論は、刑事法を理解するための必要不可欠な基礎になりますが、その背景には歴史と哲学があり、一通りの理解に至るだけでも決して容易ではありません。しかし、1年生が同時に学び始める民法や憲法などとは異なり、刑事事件は日々のニュースになるので、身近でとっつきやすい面もあります。

授業では、元検事(現弁護士)である私が初学者を対象に書き下ろした、実務に即したテキストを用い、身近な具体例や著名な事件などを挙げながら進めていきます。このテキストは総論ばかりか各論(各罪)も一冊に収めており、適宜その項も参照することで、理解はより深まると思います。

書く力を重視しており、最終の授業内試験は論述式2問形式で実施し(教科書・ノート持ち込み可)、その模範解答・コメントは後にLMSにアップします。なお後期途中に、同じ形式で中間試験を実施します(すべて目を通してコメントも作成しますが、成績評価には含めない予定)。

2. 授業の到達目標

刑法の基礎を理解し、その考え方の基本が分かり、人に分かるよう説明できるようになること。

3. 成績評価の方法および基準

授業内試験(論述式2問)の採点結果によって、成績を評価します(S10%以内、A～C各30%予定だがBが多くなる傾向あり、Dは例外的)。出席回数を受験資格としないし、出席点の加味もしませんが、これまでの経験からして出席状況の良い学生のほうが点数も高く、従って成績も良いので、自分のために出席してください。

4. 教科書・参考文献

教科書

佐々木知子著 『警察官のためのわかりやすい刑法』 立花書房

参考文献

『別冊ジュリスト 判例百選刑法総論(第8版)』 有斐閣

5. 準備学修の内容

教科書とノートをベースに、前回分を復習するとともに次回分を事前によく読むこと(2時間程度)、その際、常に具体的な例を想像しながら自分の頭で考える癖をつけるようにしてください。また書く力を養うために、なんであれ、できるだけ文章を書くようにしてください(漢字を正しく書けるよう、忘れないよう、手書きがお勧めです)。

6. その他履修上の注意事項

教室でのマナーを守ること。

すぐについていけないので、必ず予習・復習を。授業の最後15分を質疑時間に充てており、質問大いに歓迎です。

7. 授業内容

【第1回】 前期試験の講評・解説——アップしておくので各自印刷を。

第7章 責任①

【第2回】 第7章 責任②

【第3回】 第7章 責任③

【第4回】 第7章 責任④

【第5回】 第7章 責任⑤

【第6回】 第7章 責任⑥

【第7回】 中間試験(論述式2問)実施。オンラインで金～日曜に適宜作成し、送信してもらいます。ただし進行によっては1回程度ずれるかもしれないので、授業に出席してフォローしてください。

【第8回】 上記模範解答・コメントについて、復習を兼ねて解説する。

第8章 未遂①

【第9回】 第8章 未遂②

【第10回】 第9章 共犯①

【第11回】 第9章 共犯②

【第12回】 第9章 共犯③

【第13回】 第10章 罪数論

【第14回】 手続き・裁判員裁判について(教科書第29章)

【第15回】 まとめと授業内試験実施(範囲は第8章以降)